



ふそう

福祉だより

2025年4月号

No. 168

■編集・発行／社会福祉法人扶桑町社会福祉協議会

〒480-0104 扶桑町大字斎藤字榎230番地
(扶桑町総合福祉センター内)

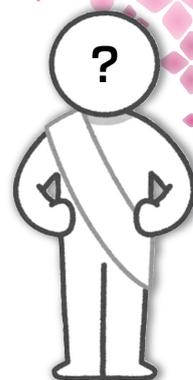
TEL(0587)93-4300 FAX(0587)93-4349



扶桑町社協

マスコットキャラクター

大募集!



法人設立40周年を記念して、多くの方に私どもの活動をPRするためのマスコットキャラクターを募集します。ご応募お待ちしております。

1. 募集期間

令和7年4月1日(火)～6月15日(日)

※応募用紙等詳細は、こちらから→



2. 応募資格

扶桑町在住、在勤、在学および扶桑町に愛着がある方(プロ・アマ・団体等不問)

3. 募集内容

- ・本会のマスコットキャラクターのデザイン、キャラクター名、プロフィール
- ・「共に生き 共に支え合い 誰もが安心して いきいき暮らせるまち ふそう」のスローガンを基に親しみやすいキャラクター

4. 応募方法

- ・応募用紙(指定様式)に必要事項を記入し、郵送、持参、Eメールのいずれかの方法でご応募してください。1人何点でも応募できますが、1作品につき1枚の用紙にご記入ください。
- ・応募用紙は、本会事務局窓口のほか、本会ホームページからダウンロードできます。

2025年度ボランティア保険のご案内

ボランティア活動保険は、国内におけるボランティア活動中にボランティア本人がケガした場合や相手側に損害を与えたことにより、損害賠償が生じた場合などに補償されます。是非、ご加入ください。

※以下の保険は、ボランティア活動中に限ります。



| 1名あたりの年間保険料 4月1日から翌年3月31日まで | Aプラン | Bプラン | Cプラン |
|--------------------------------|------|------|------|
| 基本プラン | 250円 | 300円 | 500円 |
| 天災プラン | 400円 | 500円 | 800円 |

※上記の保険のほかに、イベントごとに加入可能なボランティア行事用保険もあります。詳しくは、扶桑町社会福祉協議会事務局(0587-93-4300)にお問合せください。

令和6年度「福祉体験作文コンクール」作品紹介

愛知県社会福祉協議会が主催する福祉体験作文コンクールは、「福祉体験」をテーマに作品を募集します。作品応募には町内小中学校にご協力いただいています。

見事、扶桑町立山名小学校の中池桜彩さんと扶桑町立扶桑中学校の松田実桜さんの作文が入選しましたので、ここで紹介します。※令和6年度の学年になります。

『手話と心のバリアフリー』

山名小学校 五年 中 池 桜 彩

耳が聞こえない人がいることを私が知ったのは、六才の時のことだ。ある歌手のふりつけに手話が使われていたのを見たのが最初だった。

「ママ、手話って何？」

母から耳が聞こえない人が使う手の会話があることを聞き、頭の中で時が止まった。

どういふことか知りたくて、テレビの音を消し、字まくを出した。しかし、6才の私に全ての漢字は読めなくて、文字もあつという間に消えてしまうから、何を言っているのかが、さっぱりわからなかった。

扶桑町の手話サークルが小学校に来ることを知り、それを楽しみに入学したが、コロナで休止になりガツカリした。そんな中で犬山市で手話こうざがボランティアで行われていることを知り母に参加した。

耳が不自由な人には、全く聞こえない「ろう者」と聞こえない「難ちょう者」がいる。そのこうざの先生はろう者で、私くらいのまごがいるおじいさんだった。小学一年生の私に二時間の授業は眠くなる時もあったが、みんなが優しくかったので、全六回を最後までがんばることができた。先生は明るく面白い人で、手話と表情でたくさん笑わせてくれた。しかし、耳が聞こえないことで苦労した話を聞いた時は、みんなが悲しい顔になった。先生が最後の日に「私たち障害者はこうして手話を勉強しに来てくれたり、歩みよってくれたりすることがうれしいんだよ」と話してくれた時に、私は手話こうざに参加して良かったと心から思った。

私は五才からダンスを習っている。昨年一宮市のストリートダンス協会から福祉のイベントにさそわれて、障害のある子供たちとノリノリで楽しいダンスを全力でおどり、ヨアソビのツバメと

いう歌を手話で一人でひろうした。初めて人前でやる手話にきんちようで手がふるえたが、会場全体から温かい手びょうしをもらい、思いをこめた「手歌」ができた。「感動した」という言葉をもらい、自分のパフォーマンスで何かが伝わったことがうれしかったし、これがきっかけでだれかが手話にきょう味を持つてくれたらいいなと思った。

NHKの番組で、ろう者、難ちょう者のさまざまな生活を見た。親が耳が聞こえないという子や死を考えたことがある高校生もいて、たくさんのかべと、当たり前が通じない世界に心がいたくなつた。ゾツとした話もある。駅のアナウンスや非常ベルのきんきゅうの知らせが聞こえないことや、エレベーターの非常ボタンをおしても、インターホンで相手と会話ができないことを知った時は、とてもおそろしかった。だから困っていたら手話で助けたいと思つて勉強を始め、二年生の時に手話技能検定六級、三年生の時に全国手話検定五級に合格した。四年生の時は試験当日に高熱が出て受けられなくて布団の中で泣いた。またチャレンジしたい。

今も南海トラフ地しんや線状こう水たいでたくさん障害者が不安になっている。私もこわいので大災害が来ないようにいっている。

二〇二五年は耳が不自由な人のデフリンピックが初めて日本で行われる。デフリンピックは先日までオリンピックが行われていたパリで、一九二四年にスタートし、来年の東京は記念の百周年大会となる。たくさん耳の不自由な選手が世界各国から日本へ来るので、国際手話も少し勉強して選手を応援したい。

障害者は同じ日本に住んでいても、外国にいる気もちでくらしっていると聞いたことがある。私は学校で英語を習うように、障害者の世界、文化のちがいを知り、コミュニケーションをとることで、色々な障害をもつ人が、心から何かを楽しめるように、建物のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーも大切だと思つた。だから、私は出会った「手話」を通じて、心のバリアフリー活動もしたい。



『あなたが思う思いやり』

扶桑中学校 一年 松田実桜

私はこの夏休みに、「永遠の郷」という老人ホームで福祉体験をさせてもらいました。職員さんが優しく出迎えてくれて、穏やかな雰囲気をもった素敵な場所でした。ここで体験させてもらったことの二つを紹介いたします。一つ目は、車椅子体験です。皆さん、車椅子にも種類があることを知っていますか。車椅子には大きく分けて三つ種類があります。まず、一般的に使われている事が多い、自走用と介助用が一体になったものです。次に、座る体勢が困難な人向けの、背もたれと座面の角度を調節できるものです。さらに、電動のタイプのリモコンで操作するものです。高齢化すると皮膚が薄くなり、車椅子を降り降る際に、車椅子のフットサポートに脚が当たって皮膚がただれることがあるそうです、職員さんはそのようなことに気をつけて介助していました。最近では、車椅子を利用して人の介助で、「勝手に車椅子を押さない」ということがマナーとして知られています。実際に乗って、いきなり押してもらうのと、「今から移動しますよ。ゆっくり進みますね。」と一言声をかけて押してもらうのでは、声をかけてもらったほうが安心できます。これらは、押す人と乗る人の信頼関係なんだと思います。二つ目は、入居者さんとのコミュニケーションをとったことです。今回初めて会った方々で最初は緊張したけれど、話しかけてみると、あるおばあさんは昔農業をやっていたにんじんやトマトなどを栽培していたということに懐かしそうに話ってくれました。その時のおばあさんの、目を細めてほほえんでいたあの顔は忘れられません。また、入居者さんが作った手縫いのキーホルダーをもらって温かみを感じました。「永遠の郷」は、入居者の方の第二の家を目指して、その方の自宅のような環境づくりをしています。例えば、入居者の方の愛用のもの、写真、たんす、カーテン、枕カバーとブランケットなどを個室に置いて自分流にアレンジできるようにしていることで

す。職員さんに、「入居者の方ははじめ全く知らない方なのに、なぜ人のために働けるのですか。その原動力を教えてくださいませんか。」と質問しました。それで、職員さんは、「よりよく生きぬいてもらいたいから、それを全力でサポートしたいという気持ちがあります。入居者の方がこの施設で過ごせて幸せだったと言ってもらえることが励みになります。」と答えてくださいました。そして、車椅子などのように自分では気付けないことがあるからこそ、人の立場に立って、自分だったら脚に当たって痛いと言えりけれど、高齢者の方は痛いと言いつらいかもしれないと想像したり、考えたりして行動することが必要だということも知りました。

私はバレーボール部に所属しています。顧問の先生はよく、「ボール拾いができるチームこそ強い。」と話しています。ボール拾いでは、足元にボールが転がっていると、その近くにいた子がボールにつまずいて怪我をしてしまうということが起きかねないのです。そうしないためには、一人一人が自分のことばかりではなく、周りにも目を向けて、すぐに拾いに行ったり、練習を始める前に使わないボールはしまったりするなど、ちょっとした気遣いができるようになることが一番の近道だと思いました。

皆さんは、思いやりといえれば何をうかべますか。福祉だけが思いやりでしょうか。私は、「思う」と「思いやり」は別物だと考えます。「思う」は自己満足で終わらせることですが、「思いやり」は相手の気持ちや考慮した上で行動に起こすことです。自分が受けた幸せを他の誰かに渡すことで幸せな人が増えるという、ペイフォワードの考え方が広がっていくといいと思います。

「永遠の郷」を訪問させてもらって、素敵な空間だなど思いました。なぜなら、入居された方を、精一杯サポートして、笑顔にしている様子が心に残ったからです。将来、介護や医療関係の仕事に就くかは分からないけれど、この経験を糧に、人を思いやつて人のために働ける人間になりたいです。そして、この世の中が、いつか笑顔であふれることを願って。

善意のご寄附

ありがとうございました。

(社会福祉協議会へ)

| ご氏名 | 寄附内容 | ご氏名 | 寄附内容 |
|---------------|-----------|---------------|-------------|
| エコクラブひまわり 様 | 140,950 円 | 某 様 | 5,000 円 |
| さくら 様 | 13,000 円 | 某 様 | 5,000 円 |
| あっぷるぱい 様 | 10,000 円 | 某 様 | 5,000 円 |
| 某 様 | 10,000 円 | おもちゃ図書館ピノキオ 様 | 4,000 円 |
| タナカノパンヤ 様 | 6,000 円 | 某 様 | リハビリパンツ、パッド |
| 朗読グループあいうえお 様 | 5,000 円 | | |

(12月21日～2月28日・順不同)

法律相談

※予約（4月分は4月1日から、5月分は5月1日から）が必要です。初めての方を優先させていただきます。

弁護士が、法律に関する専門的な相談に、無料で応じます。相談時間は、1件30分までとさせていただきます。

相談日／4月28日(月)・5月26日(月)

時間／午後1時30分～4時30分

場所／扶桑町総合福祉センター 2階 相談室

定員／6人

ご利用ください

心配ごと相談

※予約が必要です。

保護司、行政相談委員または、人権擁護委員など、経験豊かな相談員が、住民の皆さんのあらゆる困りごとや悩みごとの相談に応じます。相談時間は、1件30分までとさせていただきます。

相談日／4月4日(金)・18日(金)

5月9日(金)・16日(金)

時間／午後1時30分～4時30分

場所／扶桑町総合福祉センター 2階 相談室

定員／6人

声の広報

この「ふそう福祉だより」、「広報ふそう」をCDに録音し、ご要望の方に貸し出しています。

この活動は、「朗読グループあいうえお」の皆さんの協力を得ています。



< 扶桑町総合福祉センター 外観 >



社会福祉法人
扶桑町社会福祉協議会

〒480-0104 扶桑町大字斎藤字榎230番地
(扶桑町総合福祉センター2階)

TEL: (0587) 93-4300

FAX: (0587) 93-4349

e-mail: f_syakyo@k5.dion.ne.jp

- ◆ 地域包括支援センター TEL:91-1171 FAX:92-2863
- ◆ 居宅介護支援事業所 TEL:91-1103 FAX:93-6151
- ◆ 訪問介護(ホームヘルパー) TEL:93-9290 FAX:92-2864
- ◆ 訪問看護ステーション TEL:91-1181 FAX:92-2864
- ◆ デイサービスセンター TEL:91-1161 FAX:92-2862
- ◆ 福祉センター TEL:91-1151 FAX:92-2861

